

見直し検討項目

これまでの経過 (H30 文化振興審議会意見書より)

- 市美術展覧会は、地方公共団体が実施する市民に最も身近な展覧会であることから、市民に広く機会を設けることに重点を置くこと。
- 出品者および来場者の減少、高齢化という課題があり、長期的に新しい要素の検討を行うこと。
- 現代のニーズに合わせて部門を新設するなど、他市との差別化が図れるよう特色を設けること。
- 個人の作品展示だけでなく、アートと社会の関わりを提示する機能を検討すること。
- ➔ 若者、高齢者問わず幅広い世代が出品しやすい展覧会にする
- ➔ 極力落選を抑え、誰もが出品しやすく親しみやすい展覧会にする

検討項目① 部門の新設

(仮称)イラスト部門の試験的導入について

背景

- ・若年層の出品を促し、幅広い年齢層に親んでもらえる展覧会としたい。
- ・アトリエや専門的で高価な画材が無くても気軽に出品できる部門を設けたい。
- ・昨今、大学等では、イラスト、デザイン等を専攻する学生が多い。
- ・デザイン部門にイラストを加える都市もあるが、規格が広範にわたり審査が困難。

- ・当面は、試験的に導入。部門として追加する前にニーズや課題等について検証。
- ・審査員は、包括協定締結大学から推薦予定。
- ・規格、賞について検討要。

イラスト部門 規格(案)

- 平面作品であること(立体、映像作品でないこと)
- 一枚絵であること(漫画でないこと)
- 画材、手書き、コンピューターグラフィック使用不問

検討項目②-1 草津市の独自性(若者の出品、来場を促す仕組みづくり)

[例]

- 副賞として商業施設等での個展開催権の授与
- 開場時間の延長(例) 平日 9:00～16:30 → 平日 9:00～20:00
- ギャラリートーク(鑑賞の仕方講座)

検討項目②-2 草津市の独自性(市民参加型の展覧会とする仕組みづくり)

[例]

- 来場者投票による賞の導入